



明治34年 萩御殿付近



現在の状況



施工状況（昭和中期）



はげ山分布図（明治22年）



明治33年施工石堰堤（現在）



復元した萩御殿（平成16年施工）



皇太子殿下（大正天皇）
行啓記念碑

○所在場所

はぎどのちよう
愛知県瀬戸市萩殿町地内

○施設・工法の概要

山腹面に階段を切り付け苗木を植栽したはげ山復旧工事
皇太子（後の大正天皇）が行啓された萩御殿の復元

○解説

三大はげ山県の一つとして数えられるほど荒廃していた愛知県の尾張丘陵地の復旧のため、明治33年以降積苗工等による大規模なはげ山復旧工事が実施されました。この工事には関係者等の見学が相次ぎました。明治43年には皇太子殿下（後の大正天皇）が行啓され、見学者用に建てられていた萩の茶屋からはげ山復旧工事をご覧になられました。その後、萩の茶屋は萩御殿と呼ばれるようになり、瀬戸市萩殿町という地名の由来ともなっています。

第二次世界大戦の戦中戦後の混乱期に再び荒廃した森林に対して、昭和22年から昭和44年にかけて、改めてはげ山復旧工事が実施されました。

現在でも瀬戸市南公園において、当時の工事跡や復元した萩御殿を見学でき、歴史に触れることができます。